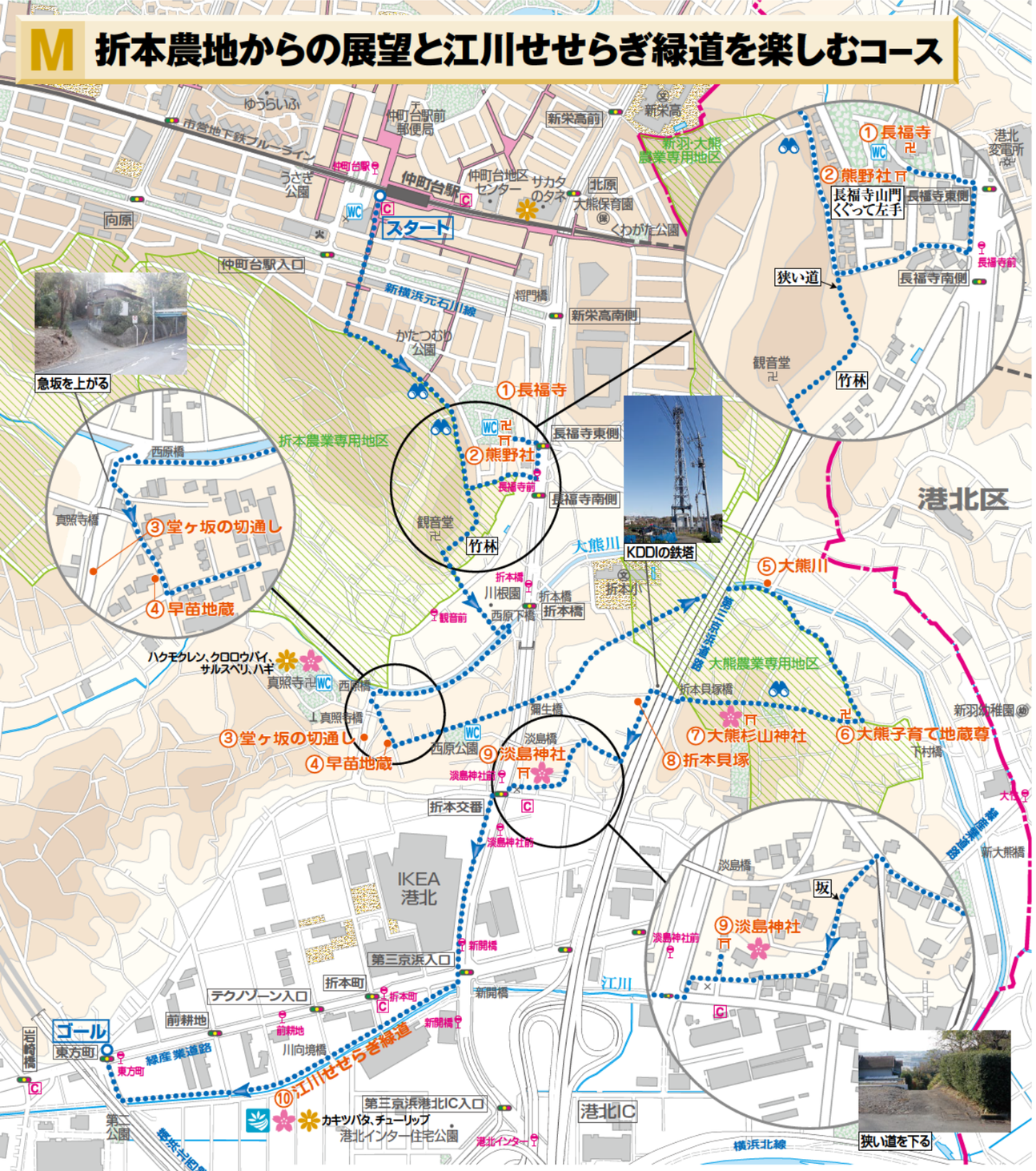
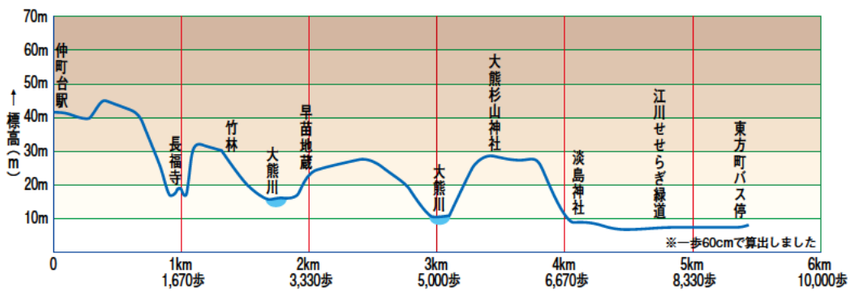
M 折本農地からの展望と江川せせらぎ緑道を楽しむコース





① 長福寺

曹洞宗久松山長福寺、本尊は釈迦牟尼仏。開山は天正3年5月(1575)。長福寺の成立は、境内にある熊野社の別当寺としてであった。現在は一大墓苑をお守りする慈悲に満ちた聖観世音菩薩「福寿観音」と、境内を彩る四季の花々で有名な寺院である。

② 熊野社（長福寺境内）

新編武蔵風土記稿によると、平将門が7日間参籠し願を懸け金色の観音様を授かった後、勢力を拡大していったという伝説がある。江戸時代までは独立した神社で、長福寺が経営管理を任されていた。明治42年(1909)に大熊杉山神社に合祀された後も、御神体は長福寺本堂で熊野権現として祀られ続けたが、現在は平成8年に新築された社に遷され安置されている。

③ 堂ヶ坂の切通し

灌漑用水を通すために、僧の了信と娘つがに村人が協力して造った堂ヶ坂の切通しは、用水が流れていた当時の面影は全くない。現在は真照寺橋も立派になり、切通しは舗装され自動車道路になっている。

④ 早苗地蔵

西原橋から南に坂道を登ると、右手の小高い所に早苗地蔵尊が見える。お彼岸には苦労して村に水を引いた先人の供養が今も行われている。地蔵立像に寛文2年(1662)と銘され、念仏供養塔としては、もっとも古いもの。

⑤ 大熊川

「クマ」は「曲」を意味し、川の流れが大きく曲流している形状をいう。昔は農用地の大切な灌漑用水だった。大熊川沿いの地域は、昔ながらの風情を残し、河岸の景色が美しい。

⑥ 大熊子育て地蔵尊

長福寺の門前地蔵。8月24日は地蔵尊縁日。安産・子育て・イボ取りのお地蔵様として霊験あらたかである。縁日には、地蔵講員による湯茶の接待があり、子供や女性を中心に多くの人々がお詣りする。大熊地蔵尊は明治42年(1909)に数か所あった地蔵尊を集めて御堂を造り安置し、昭和57年(1982)に現在の場所に御堂が新築された。

⑦ 大熊杉山神社

参道には石の鳥居が3カ所、境内には相当数の欅の他、桜と楠の大木があり、大熊の鎮守神としての雰囲気を感じる。氏子の崇拝はすこぶる篤く、五穀豊穣、家運隆昌、厄難消除の神として霊験あらたかな尊神である。

⑧ 折本貝塚

折本台と呼ばれる台地のほぼ中央、堂ヶ坂より東に向かい、大熊の集落に通じる道と折本小学校から南へ行く里道が台地の中央で交差する付近にある。現在「折本貝塚橋」が第三京浜道路の上に架けられ、この付近に「折本貝塚」があったことが分かる。

⑨ 淡島神社

創立の時期ははっきりしないが、明暦の頃(1655～1658)に、今の場所に祠があり近隣の人たちが、お参りにいったという。江戸末期から明治にかけて女人信仰の神として崇敬され、3月3日の大祭には品川の芸者衆が、列をなして参拝し賑わったという。

⑩ 江川せせらぎ緑道

東方町と川向町の境を流れる江川は、周辺の都市化が急激に進んだ結果、農業用水の役目を終え荒廃した。しかし、平成8年(1996)に、都筑水再生センターの高度処理水が流れるようになると、鮒や鯉などが泳ぐ水路となった。現在は地域の活動により、桜やチューリップなどが咲く、都筑の花の名所になっている。

堂ヶ坂の用水路

天文元年(1532)の頃、織本村(現・折本町)の鶴見川沿いの土地は用水に恵まれず、毎年の干ばつが農民を苦しめていた。そこで堂ヶ坂に住む了信という僧が、村人の悲嘆を見るに堪えず、大熊川の水を引用するために山を削る作業を始めた。初めは村人は了信を狂人扱いしていたが、工事が進むにつれ人手は増え、あるときは全村が一致して工事に参加した。しかし工事半ばにして、了信は土砂くずれのため圧死してしまった。その後も惨事は起きたが、了信の遺志を継いだ村人により、天文8年(1539)用水路は完成した。

大正8年発行
この地図は、陸地測量部の2万5千分の1地形図(荏田)を使用したものである。

大正11年頃の切通し